

少年のセクシュアリティ

Stefan Laack

スウェーデンの女性の性教育には長い伝統がある。事実をほとんど知らされないことによるしわ寄せがくることになるのは女性なので、これは当然のことである。しかしそのことは、その情報によっていると、少年と男性が必ずしも自分自身をよく理解しているわけではないということも意味している。

未来の男性はポジティブな男性のセクシュアリティのイメージを、果たしてどこで見いだすのだろうか。

若者を対象としたカウンセリングを通して？ それとも学校の性教育において？

しかしおそらく少年への情報は、一般的には避妊する立場の方により適応したものであり、若い男性はその経験を楽しむもう片方の性として描かれることはほとんどなく、むしろ用心深くするようにということが描かれる。

ポルノグラフィはどうか？

おそらくそこで、男性のセクシュアリティは悪であるということを、男性自身が確認することがしばしばあるだろう。

男性のセクシュアリティは、本の表題や見出しの中で、男性が潜在的で近親相姦的な強姦魔だとのめかすような仕方で描かれることがしばしばある。

もし若い男性に対して何らかの性教育を受けたかどうかをたずねたならば、「まったく受けた覚えはない」とかたくなに言い張るものが驚くほど多いだろう。性教育を受けた覚えのある男性でも、自分の受けた性教育について好意的に話すことは滅多にない。彼らは、性教育の中ではいまだに、男性はいやらしく、配慮に欠け、そのことにしか興味がなく、避妊を面倒がるという神話が一般的だと語っている。

セクシュアリティは4つの要素から成り立っている

- － 生殖
- － 愛

ー 快 楽

ー アイデンティティ

大人が少年たちにセクシュアリティについて語るとき、上記の順序で語られることがしばしばある。生殖と遺伝する性病や望まない妊娠といった生殖の暗部については多く語られる。愛についてもよく語られている。愛によってセクシュアリティの問題が覆い隠されていると、私はあえて言いたい。その一方で、快楽の性とアイデンティティを確立するためのセクシュアリティが、手の届かないところにいつてしまっているのだ。

若い男性は、反対の方向からセクシュアリティにせまっている。このことは、彼らに「快楽」と「アイデンティティ」を与えてくれる。おそらく、彼らはずっと後になって、「愛」と「生殖」へたどりつくのかもしれない。

精神・性的発達モデル

特に十代において、男女には違いがある。しかし、若者に対してセクシュアリティに関する知識を提供する場合、私たちはこのことを考慮に入れているだろうか？

大人の男になるということは、女性の保護下から離れることである。それにうまく対処するために、若い男性は無口になる。彼らが言葉を発するように援助できることは、沈黙することだ。無口になることは、少年が大人の男性へと成長する過程だという意味で良いことでもあるが、少年が自分自身や自分の成長する身体、他の男性と女性、人間関係について多くの錯覚をもってしまう過程でもある。

若者に情報を提供する時、大人の経験からものをいうことは簡単である。十代の少年たちにとって、「ちょっとしたことが大切である」ということは忘れられがちである。部屋の中をちらりと見る、ファーストキス、人と触れあうときにはどうするのか。

セクシュアリティを身につけることは、究極のイニシエーションであり、多くの行程を経て、最終的にどちらか一つの性にたどりつく旅にたとえることができる。性交だけについて語ることは、より広い理解を見落とすことである。

マスターベーション、性的空想や夢、ポルノグラフィなどについても見落としてはならない。もちろん性交もまた、人は性交をどのようにし、そこに何を求めているのか?といった観点からも、たいへん重要である。

少年たちに避妊について教えるとき、コンドームは少年たちにとって実現可能な唯一のものである。この時、コンドームに対して男性が感じる感情的な嫌悪感を言葉で説明することも必要である。人は自分の感情を言葉で表すとき、成長し発達することができるからである。

(渋谷美穂)